

普及活動情勢報告（平成29年5月分）

中央東農業振興センター農業改良普及課

農村女性リーダーが研修交流会「そよかぜウォッチング in 香南～奈半利」を開催



4月27日に中央東地区農村女性リーダーが企画した研修会「そよかぜウォッチング」が奈半利町などで開催され、17名が参加しました。

農業改良普及課は研修先との調整や資料の準備など円滑な取り組みに向けて支援しました。まず、なはり駅近くの特産品加工所「奈半利のおかって」を訪問し、取り組みの説明を受けた後、意見交換を行いました。

その後、香南市の地元農村女性リーダーのハウスメロンのほ場では、リーダーから暖房方法による具体的な経費の比較の説明がありました。また、経営主からは炭酸ガス供給効果についての情報提供があり、「知らなかった」、「勉強になった」との声が聞かれるなど有意義な研修となりました。

農業改良普及課は、農村女性リーダーの自主活動の円滑な実施、新たな活動の提案等、資質向上に向けた取り組みを支援していきます。

蕪生米のブランド価値向上に向けて協議



5月8日、JA土佐香美香北支所において、蕪生米研究会員11名が定例会を開催し、本年度は食味コンテストへの出品、販売用パッケージの作成等を行うことが承認されました。

農業改良普及課は、一昨年から取り組んでいる緑肥栽培暦の案を紹介し、高食味栽培について理解を促しました。また、肥料メーカーの協力で、食味計を用いて会員の玄米を測定した結果、予想以上の好成績でコンテスト出品への意欲が高まりました。

農業改良普及課では、引き続き蕪生米ブランド価値向上に向けた取り組みを支援していきます。

～就農希望者の支援方法を検討する～ 第2回ユズ産地協議会



5月18日、JA土佐香美柚子生産部会や関係機関で構成されるユズ産地協議会は第2回定例会を開催し、10名が参加しました。

柚子生産部会は昨年度、産地提案型の担い手確保・育成体制を整備し、就農希望者も現れ始めています。今回の定例会では、研修制度を活用した就農希望者の支援方法、放棄園の流動化方法について、農業改良普及課が示した案を検討してもらい、参加者の賛同が得られました。

農業改良普及課は、今後も部会や関係機関と連携し、ユズの新たな担い手の確保や育成を支援します。

J A土佐香美で露地オクラ現地検討会を開催しました



5月1～2日にJ A土佐香美オクラ春菊部会が、山田支所、香我美支所、香北支所で第2回目の現地検討会を開催し、29名が参加しました。

3～4月の低温・少雨の影響で、今年は例年より発芽が遅れており、まき直しをしたほ場も見受けられました。J Aからは今後の栽培管理について、また農業改良普及課からは病虫害防除や今後の気象状況について説明し、出来るだけ早く着果を安定させるように皆で肥培管理について検討しました。

農業改良普及課は、今後もJ Aと協力して部会の活動を支援していきます。

南国市の3J A合同でシシトウの品質検査を行いました！！



5月10日に、南国市内の3J A合同によるシシトウ出荷品の品質検査を行いました。当日は園芸連、J A営農指導員、出荷場担当、シシトウ部会役員14名が参加し、出荷場4か所を巡回しながら、各場でシシトウの鮮度、規格の厳守、異物混入、パックの溶着具合などを確認しました。また、検査終了後には検査員から結果報告をしていただき、全員で情報を共有しました。

農業改良普及課は当日の運営やパック重量の計測結果など情報提供をしました。本園芸年度は今回が最後の合同巡回検査となりますが、次園芸年度も継続して行うことが同意されました。

今後も、南国市シシトウの品質向上に向けた活動を支援していきます。

～進めよう集落営農！！～ 香美市中山間直払集落協定代表者説明会



4月19日から21日に市主催で中山間直払集落協定の代表者説明会が3町で開催され、61名が参加しました。

農業改良普及課からは、農地を守る仕組みづくりの必要性や、ステップアップしている集落営農組織の事例等を説明し啓発しました。

会終了後に行ったアンケート調査では、多くの方が「後継者がいなくいつまで農業を続けられるか不安である」との回答もありましたが、12名が「集落営農を現在検討中又は前向きに考えていきたいので協力してほしい」や「集落で使う共同機械等を導入したい」と回答されていました。

今後はそのような集落を中心に、関係機関と協力して集落の意向等を聞き取り、農地を守る仕組みづくりに向けて座談会の開催等を支援していきます。

ニラ新規就農者の研修会「グリーンカレッジ」を開催しました



4月21日にニラの新規就農者を対象とした研修会「グリーンカレッジ」が開催され、6名の生産者が参加しました。

今回の研修会では、3年後の経営目標や作付計画の組み立て方を提案するとともに、栽培状況や出荷量を記録することの重要性について確認しました。

参加者らは自分の出荷量や販売額の実績をもとに、3年後の所得目標を立て、平成30園芸年度の作付計画を作成しました。その中で「この時期は複数ハウスの収穫作業が重なってくる」「雇用があるので、この作型も残さざるをえない」「消費税が上がる前にハウスを新設したい」など様々な意見が出されました。

農業改良普及課は、今後も参加者の目標達成に向けた研修会や栽培支援に取り組みます。

～ユズの青玉出荷をしてみませんか～ J A土佐香美露地スミカン部会青玉出荷勉強会



5月17日、J A土佐香美露地スミカン部会は山北果樹センターで青玉出荷勉強会を開催し、生産者7名が参加しました。

露地スミカン部会は加工主体のユズ部会ですが、他品目との複合経営者が多く、秋の収穫期の労働力不足が課題です。

勉強会では、農業改良普及課とJ Aから労力分散や隔年結果軽減等の青玉出荷のメリットや園の管理、販売情勢について説明し、すでに青玉出荷に取り組んでいる生産者からは取り組んだ感想を紹介してもらいました。その結果、新たに1名が青玉出荷の意向を示しました。

農業改良普及課は、今後もJ Aと連携し、部会の青玉出荷促進の動きを支援します。

G A P点検で出荷場を巡回



4月21日、J A十市、J A長岡の集出荷場において、G A P（生産工程管理）の取り組みに対し、園芸連など関係機関による点検を実施しました。

農業改良普及課は、園芸連と点検項目に従い、J A担当者に集出荷場における取り組み状況を聞取るとともに、日々の点検記録を確認しました。また、出荷場の照明の照度について、作業スペースにおける照度が適応しているか参加者で確認しました。

点検を実施し、「前回の指摘した事項は改善されている」、「作業を行っている照明下が思ったより暗い」、「照明の位置の見直しが必要」、などの意見がありました。

農業改良普及課は、今後もG A Pの取り組みと啓発活動への支援を行います。

